

# CMI 株式会社

横浜市鶴見区東寺尾中台20-3,301

TEL : 045-717-8575 FAX: 045-717-8683

## 中国の天然黒鉛の輸入量急増で国内供給回復



ICC 資訊によると、中国天然黒鉛の1~5月の生産量が約14万トンを超えた。

供給面で見ると、鱗状黒鉛の主要生産地は左図に示したように黒竜江省鶏西市と鶴岡市蘿北県である。鶏西市と蘿北県の黒鉛企業では2022年初めから、冬季の設備点検と環境保全検査などによって生産を停止していた。鶏西市の関連企業は3月には生産を再開したが、蘿北県は5月になってようやく生産活動を回復した。

環境機関による再検査のため5月下旬には操業が停止され、6月初めに検査に合格した企業が操業を再開した。

現時点では、蘿北県の大手黒鉛企業の黒竜江海達新材料科技有限公司、黒竜江奥宇石墨集団、黒竜江省宝泉嶺農墾溢祥石墨有限公司、蘿北富達石墨有限公司が正常生産を行っている。

-195 鱗状黒鉛 (FC : 95.0、ASH : 3.3、VM : 1.2、MO : 0.5、Mesh : +100) の出荷価格は5,200~5,400 元/トン (10.55~10.95 万円/トン、1元=20.28 円で換算) である。図1に中国の-195 鱗状黒鉛の価格推移を示す。



出典: ICC 資訊

図1 中国の-195 鱗状黒鉛の価格推移 (2021年1月~2022年6月)

輸入量を見ると、天然鱗状黒鉛の1~5月の輸入量は6万7,000トンである。そのうち、5月は2万1,000トンに達して記録を更新し、前年同期比1300%増となった。

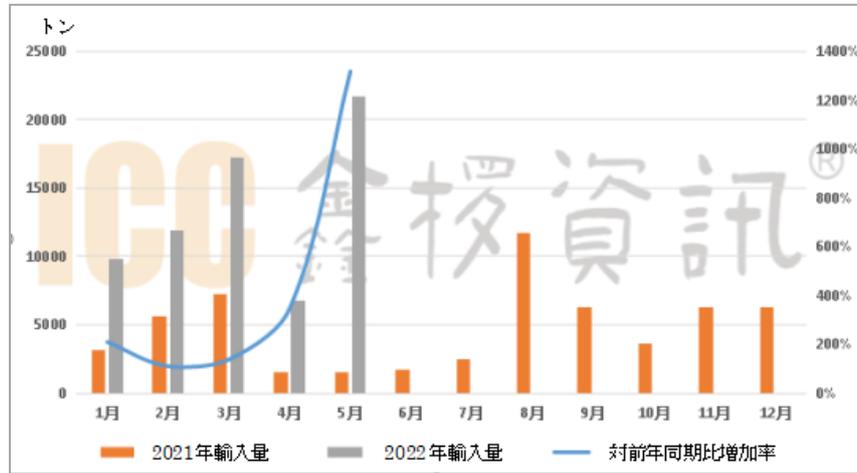
Syrah Resources の発表によると、モザンビークの Balama 鉱の天然黒鉛の3月末現在の生産量は4万6,000トンで、販売量は3万5,000トンで、昨年に比べて大幅に増加した。加重平均 CIF 価格は573ドル/トン (7.79万円/トン、1ドル=135.97円で換算) に上がったが、需要は依然として高まっている。6月の注文量も9万トンを超えている。

# CMI 株式会社

横浜市鶴見区東寺尾中台20-3,301

TEL : 045-717-8575 FAX: 045-717-8683

図 2 に 2021 年と 2022 年の天然鱗状黒鉛の輸入量を示す。



出典：ICC 資訊

図 2 天然鱗状黒鉛の輸入量（2021 と 2022 年）

鱗状黒鉛が大幅に輸入量を増やした主な原因は 2 つである。

- 1 つは国内供給量が少ないため価格が高い。一時、-195 鱗状黒鉛の価格が 6,000 元/トン（12.17 万円/トン）を上回ったときも、輸入品は約 5,000 元/トン（10.14 万円/トン）を維持していた。
- 環境保全の問題から黒鉛企業は常に生産停止を求められ、生産再開の見通しが立たない。顧客はサプライチェーンを確保するために輸入品に目を向けている。

需要面では、黒鉛化加工の費用が高騰し、人造黒鉛製負極材の最高値が更新し続けている。そのため、一部の負極材料企業では天然黒鉛の混合比を高め、その需要が増えている。海外の負極材料市場も急速に発展しており、特に欧米市場は天然黒鉛製負極材の需要が大きい。今後、世界の鱗状黒鉛の需要が増加の一途をたどると予想されている。

情報源：：ICC 資訊より整理、作成。